

日本歯科新聞

2023年(令和5年)

9月12日

<発行所>
日本歯科新聞社

テーマは「栄養療法が 歯科臨床を変える」

OMD
セミナー

第4回OMD(オーソモレキュラー)セミナー「栄養療法が歯科臨床を変える2023」写真Ⅱが3日、東京都品川区の品川フロントビルで開催された。オーソモレキュラー栄養医学研究所代表理事でみぞぐちクリニック院長の溝口徹氏による特別講演「歯科領

域のトラブルと栄養の関係」オーソモレキュラー栄養療法の可能性」、オーソモレキュラーデンタル代表で森永歯科医院の院長の森永宏喜氏による「栄養の視点、失敗しない導入の勘どころ」、歯科衛生士で栄養カウンセラーの田代素子氏の「チェアサイドで活かす

る栄養のおはなし」が行われた。オーソモレキュラー療法は、薬剤ではなく栄養によって疾病を予防・改善させる治療法で、病態改善が目的の場合には厚労省が定める「所要量」の数十倍から数百倍の量の栄養素を用いることもある。



溝口氏は講演で、栄養療法は最適な量の概念と個人差の理解が重要だと指摘。状況によってはサプリメントを併用することで、通常の治療では改善できない各

種病態の改善につながれるとした。歯科領域ではビタミンCや鉄分の不足で歯槽骨と歯茎を構成するコラーゲン繊維が崩壊し、歯周ポケットの形成や、炎症の継続による歯槽骨の破壊等が引き起こされるとした。また、長期の抗生剤の投与でも改善されなかった口腔内潰瘍が栄養療法によって治癒した症例を紹介。栄養療法の有効性を示した。

森永氏は講演で、歯科に栄養療法を取り入れると、サプリメントを通じて患者が効果を実感することで強固なラポールの構築、家族・友人の紹介率の向上、自由診療への理解、患者満足度とスタッフ満足度の両方の向上等、多くのメリットがあると言及。来院する患者の性質の理解、スタッフの育成、待合室などでのマーケティングをすることで、効果的に栄養療法を取り入れることができるとした。